

# KIBO NO NIJI きぼうの虹

発行所  
北海道大学生協同組合  
札幌市北区北8条西7丁目  
教職員委員会編集  
電話 011-746-6218



## 北方生物圏フィールド科学センター 生物生産研究農場

教職員写真同好会 伊藤仁浩

### 主な記事紹介

- 四面 北大生協を支える連帯組織 北海道事業連合とは？
- 六面 ころこの健康を考える ③ 研究が論評される雑誌のゆく
- 七面 植物園に行こう 第6回

私と北大生協の関わりは、昭和54年に北海道大学に就職した時から始まります。まあ、北大生ではなかった職員はほとんどがそうですが。しかし、私にとって初めての職場は札幌キャンパスから遠く離れた道北の幌延町字問寒別、人間よりも牛の方が多し酪農地帯でした。ここに北海道大学最北の施設、農学部附属天塩地方演習林（現、北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション天塩研究林）があり、約2万2千ヘクタールの森林を教育・研究の場としています。ここでは当時、教員、技術職員、事務職員、非正規職員を合わせて30名ほどの北大職員が働いていました。キャンパスから遠く離れた職場にもかかわらず、多くの職員が生協の組合員となっていました。そして年に1度、北大生協が書籍などの訪問販売をしてくれていたのです。就職当初、訪問販売に来る人たちは全職員生協職員だと思っていたのですが、その後、多くが教職員委員会のメンバーであることがわかりました。当時、札幌から問寒別までは車で6時間弱の道のりです。当然1泊旅程なので夜は演習林職員も参加した大宴会となります。宴

席では生協職員から北大生協の話、教職員委員からは他学部の様子などを聞くことができました。これが私と北大生協との出会いです。それから20年後、私は札幌キャンパスの演習林本部勤務となりました。その数年後の平成15年、定年退職した先輩技術職員に誘われ（たまさか）北大生協の教職員委員会に関わることになりました（これが人生の分かれ道でした）。さらに平成19年からは生協理事として運営に参画するようになりました。そして今年、定年をむかえます。

## Opinion!

**私と北大生協**



北大生協教職員委員会委員長  
(北方生物圏フィールド科学センター  
技術職員)  
問 宮 春 夫

生協活動に関わって10年間、毎月開催している「教職員総代会議」を通して、北大生協の活動を教職員組合員総代に報告するとともに組合員の要望などを生協事業に反映させる仕事をしてきました。また、生協理事として事業の意思決定に関わる中で、北大生協の内情や様々な問題も見聞きしてきました。私にとって生協の活動で得たものは大きいと感じています（しんどかったのも事実ですが）。その上で強く感じるのは、大学という「社会」の中で大学生協が福利厚生（学生共済を含む）の大きな部分を担っているという事実と、大学と大学生協が良い協力関係を維持できなければ福利厚生の質が悪くなっていくということです。大学の魅力は、そこで行われている教育・研究の質もさることながら、福利厚生の充実も大きな要素です。特に学生にとってはいわゆるキャンパスライフの魅力に直結する重要な要素だと思います。少子化により入学学生の確保が課題となってきます。北大も例外ではありません。北大と北大生協が一体となり、さらに魅力的な北大を作って行ければと考えます。

### 北海道事業連合とは？

北海道大学大学院  
教育学研究 院 渡 邊 誠  
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 加 藤 克

# キャンパス放浪記 in 函館…第5回 ①

## 水産学部・学生今昔物語

### ～現役学生と応援団誌から見る学生の風潮と傾向～

北海道大学水産学部応援団 第44代 特別幹部 向井 賢太

皆様、ご無沙汰しております。お変わりございませんでしょうか？今回は応援団の団誌と現役学生のインタビューから筆者がまとめた学生の今と昔を、少し科学的に考察してみたいと思います。大学も2年の後半から移動ではなく、3年生からの移動になったこともあり、今までできていたことができなくなったり、逆に今までできなかったことができるようになったりと、まとめる過程で非常に興味深く感じた部分を中心に記事にしていきます。今回はあまりにも記事が長くなってしまふことを防ぐため、以下の3つの質問に的を絞り、質問をしました。(1) 学生の好きなこと、(2) 学生の嫌いなこと、(3) 水産学部に願うこと、の3つです。また、今回は現役との差を明らかにするため、一番古い団誌と、くろしお(1987年)を参考文献として使用しました。団誌とは、応援団の資料として、代々作られてきたもので、団員の随想も載っています。この随想を筆者がまとめ、現役団員との対比材料にしたいと思います。

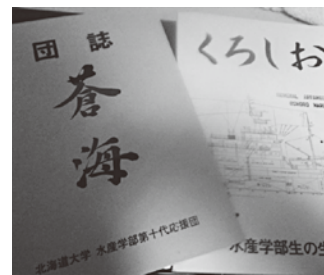
では、まず、学生の風潮(概説)から…。1980年当時の函館キャンパスは今とあまり変化はないが、テニスコートが現在の駐車場のところにもあり、学内施設は少しだけ充実しているような気がします。また、各講座とも学生の色が非常に強く、雪中ラグビーやサケの遡上を見る会なども催されていたと記載されていました(くろしお'87より)。一方、現役の学生の風潮としては、人と集まって何かをすることを好む傾向にあります。札幌で2年過ごしてから来るため、ある一定のコミュニティがすでに出来上がっていることが多い、ということが特徴的でした。そのため、コミュニティ内での活動(研究室でのお食事会であったり、サークルでのイベントだったりetc)が多く、新しくコミュニティを形成するのは難しいように思えました(当団団員からのインタビューより)。次に、あの3つの質問についての考察です。

(1) 好きなことについては、今も昔も変わらないようです。お酒を飲む、マージャンをする、女の子とデートする(?) etc…。やっぱり学生として楽しめるのはとことん楽しむのが北水生と言ったところでしょう。

(2) 嫌いなことについても、おもしろいことに状況は一致していました。それは、北水生のクラブ活動を、大多数ではない一部の人間任せにしてしまっているという点です。団誌によれば、“疲れた一部の人間と、自分には関係ないという感じで妙にしらけ何もしない大多数の学生”と記載されています。一方、インタビューでも“責任を取りたがらず、まとめ役を他人に任せたいが”という特徴が挙げられていました。この2点から、筆者は今も昔も何か新しいことを起こしたくないという学生気質を感じ取ってしまいました。風潮でも指摘した通り、水産ではどうも、新しい風を起こすのは難しいようです。

(3) 水産学部に願うこと…。時代を超えて、応援団員の思いは変化しないことをここに証明いたします。それは、今も昔も、“学内のクラブの充実化とこの風潮を打破すべくアプローチする熱意”です。昔の団誌には“この水産学部の状況に甘んじていなかったか?大いに飛躍してこの現状を打破しようではないか”、団員からは“見るだけでもいいので様々な活動に参加してほしい。新たなことに挑戦しようとするのはとても抵抗はあるが、学生生活を充実させるために必要だと思う。”と記載されていました。このことは、水産学部を心から愛し、水産学部に思いを素直にぶつけられなければ出てこない言葉だと私は思います。

最後に、ここまで大雑把に考察してきましたが、北水の風潮と我が応援団の思いはご理解頂けましたでしょうか?…え、分からないって? ……ん～…では、最後にこの言葉だけは言わせてください。“そんなに知りたきゃ函館おいで!”以上、向井が報告いたしました。



「団誌 蒼海」と「くろしお」



第10代団員集合写真

## いじわるじいさん

正月にホテル特製のお節を奮発した。暮れに、ホテル勤務の知人がお節の予約とりに苦労しているの聞いて予約したのだ。味は上々だった。▼献立表に材料と産地が載っていた。海老はベトナム、鱈はアメリカ、鶏ブラジル、豚肉カナダ、銀鮭チリ、他に中国、韓国、ロシア。世界中の食材が集まっていた▼零細農家の従姉や酪農家の友人がいるので、農畜産品は出来れば国産を、と思っている。それが新年早々、食卓に輸入食材が並び戸惑った。外国食材がこんなに多いと判っていたら断ったか、と自問する。もし店頭に並んでいただけなら買わなかった。でも知人が困っていたら：迷う▼普段の思いを曲げて買ったら、状況に流されたことになるのだろうか。たかがお節でこんなことまで考えたのは、小説「記念碑」(堀田善衛)を読んだ時だったから。状況に流される男達が登場する、敗戦前後を描いた作品だ。個人の意志の強さが試される、そんな時がまた来るかもしれないと思われてくる▼今、日本は安保関連法の下にある。71年前と似たような状況になっていくのではないか。来年のお節はどうする? 重箱を片づけながら緊張している。(今日子)



## キャンパス放浪記 in 函館…第5回②

# 水産学部生の生態 ～私たちは海が好き～

海洋応用生命科学専攻 修士1年 納谷 悠毅

皆さんは水産学部生を知っているだろうか。「え、魚について研究している人達でしょ?」まさにその通りである。しかし、その実態は漁師さんもびっくりな水産漬けの毎日である(\*個人差はあります)。今回は「研究」「サークル活動」「私生活」「アルバイト」の4項目を通じて、海というフィールドをこよなく愛する北水生の姿を紹介していきたい。

### 1. 研究

水産学部では4つの学科が存在し、多くの研究室で魚を用いた実験を行うため、様々な魚を飼育している。これらの多くは学部内の水槽センターで飼育されており、オートロック式の扉で厳重に管理されている。また、その他に私の所属する七飯淡水実験所ではサケマス類など多くの魚を扱っている。ここには、キャビアで有名なチョウザメと呼ばれる魚も飼育されており、これらは大きいもので人間の身長と同じかそれ以上に達する。採卵実験の時は、学生とチョウザメの間で迫力のある格闘が展開されている。さらに、水産学部内には時折、凄まじい異臭が立ち込めることもある。海洋生物科学科の生徒によるアザラシの解剖だ。鮭定置網の時期に混獲されたアザラシの解剖を行い、腸内容物やヒゲの安定同位体等を使用して食性などを研究が行われている。また、学生で机の上にも趣味で水槽を置いている人も少なくなく、魚に対する熱中ぶりがうかがえる。ちなみに、同期の一人は、趣味の水槽用の電気が学生室の電源では足りなくなり、ガソリン式の発電機を持ってきて教員に怒られたとか。訪れた際には是非学生室を覗いていただきたい。

### 2. サークル活動

水産学部には約40もの部活動やサークルがある。もちろん、水産関連のサークルも充実している。有名なものは「鯨類研究会」であろう。現在17代目と比較的新しいサークルであるがその内容は非常に高度である。鯨好きの学生が集まり、学祭等を通じて多くの人に鯨を知ってもらうことを目的に活動している。活動内容は学祭での鯨関係の食品販売やフェリーからの目視調査、さらには北海道各地で漂着した鯨の解析など学生レベルでは実現が困難なことを研究室や様々な研究機関との連携で可能にしている。その他にもスキューバダイビング

のライセンスの取得ができる「アクアリング」や、釣りを愛して止まない釣りサークル「アングラズ」など、水産にちなんだ活動が盛んに行われている。

### 3. 私生活

私生活からも、北水生の水産に対する思いが垣間見える。代表的なものが「釣り」である。学部からわずか徒歩10分ほどで海にたどり着ける立地条件。ゼミの同期たちは、気が向くと(研究に飽きると?)おもむろに各々の竿を取り出し、近くのフェリーターミナルを目指す。そして糸を垂らすと様々な魚が食いついてくる。夏から秋にかけてカレイやハゼが、年間を通してクロソイやアブラコが釣れる。また、「函館市の魚」に制定されたイカを釣る人もいる。函館のイカは本当に美味しい。さらに、秋には一大イベント「鮭釣り」が始まる。これに興じている人は暗いうちから(むしろ泊まりで?)釣りに出かけて鮭を狙う。釣果を左右するのは「場所取り」と「運」らしい。鮭が釣れると、身をフレーク状にしたりイクラを作ったりして美味しく頂くのである。このように釣り好きが多いため、北水生の居住区では、マンションの廊下や駐車場にウェーダー(\*腰や胸まである長靴)や釣り道具が干してある。北水生を象徴する風景の一つである。

### 4. アルバイト

水産学部生では、一部、特殊なバイトをしている人も存在する。その一つに「昆布干し」が存在する。昆布は決まった時期に多くの作業を行うため、アルバイトが雇われるらしい。ただし、場所が少し遠方(片道50km?)になってしまうので働ける人は限られてしまうものの、筆者自身にも声がかかってきたことから、一部の北水生が働いているのだろう。他にもスルメ加工工場でのバイトなどが存在する。函館には独特なバイトもあるので、これから移行してくる学生は色々探してみても?

北水生の日常は上記のように、研究から放課後まですべてを切り取っても水産まみれである。海好きにはたまらない環境が、函館キャンパスにはある。



ロガー(動物装着型記録計)を取り付けたアザラシ



つり同好会アングラズでのひとこま



海上での研究風景



# 北大生協を支える連帯組織 北海道事業連合とは?



大学生協北海道事業連合 専務理事 佐藤 敦紀

大学生協北海道事業連合の佐藤と申します。初めまして。実は若い頃北大生協の旅行部で勤務をしておりましたので覚えていただいている方がいらっしゃるかもしれません。

この度紙面を拝借しまして事業連合についてご紹介いたします。日々ご利用いただいている北大生協の様々な商品やサービスがどのよう提供されているかをご紹介しながら事業連合についてお知らせし、連帯組織という意味合いについても少し触れさせていただきます。

例えば購買部を見てみましょう。ピークは1日1万人弱がご利用になる、パン・おにぎり・お弁当・飲料等の沢山の商品はどうやって並んでいるのでしょうか？お店の店長さんや、発注を担当する職員が各々のメーカーさんと商談しているのでしょうか？もしもそうだとすると、お店毎の交渉の巧拙によって価格が違ってしまいかもしれませんし、あるお店には品揃えされたけど他のお店にはないという事態も考えられます。道内全体で考えると購買のお店だけでも30か所近くありますので第一効率が良くありません。

事業連合は取引先各社と道内12の大学生協に品揃えする商品の選定や、割引条件の対象にする商品企画(年に2回開催しているバ

リューセル等が典型的ですが、毎月あります)等を日々商談して



パリュールセルの店舗の様子

います。商談の結果を道内の各お店に伝え、各商品の発注を担当する職員がそのリストから品揃えをしているのです。

例えば食堂ではどうでしょう。毎月行うフェアメニューの確定や、どの価格帯のメニューを標準で何品出すか(メニュー構成と言います)、プライスカードの作成、食材の確保、計画していた食材が余った場合の対応等も事業連合で行っています。安心・安全な食事を確保し、安定した状態の食事をどの店舗でもご提供できるよう標準化しています。



食堂のメニューケース

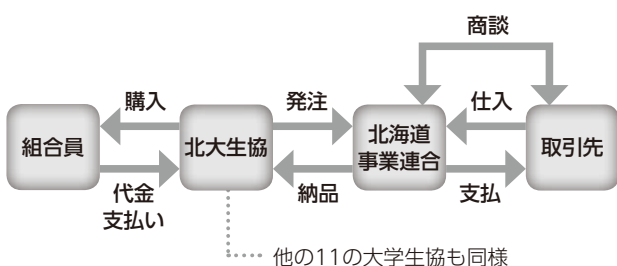
いかがでしょうか？事業連合が何をしているか想像いただけますか？

北海道事業連合の前身は、札幌地区連合と言いまして札幌市内、江別の5大学生協が共同で仕入れ業務が出来るようにと1968年に設立されました。その後74年に北大生協が加入し、90年にその業務を全道に広げる形で北海道事業連合となったのです。今では共同仕入れ機能の他に、全道共通の広報機能(ポスター、情報誌TOKUREPO、webやスマホアプリ)、全道で約2,000名弱働いている役職員の給与計算や勤怠管理、資格を持つていない大学生協の旅行を受注する旅行センター、職員の採用や集合教育等の機能を持っています。

北海道は広大な面積の中に小規模の事業所が点在するため商品を届けるためのコスト(物流コスト)が非常に大きくなる傾向にあります。もしも釧路や函館の小規模大学生協が独自で商品を仕入れるとすると満足な品揃えのお店を実現する事は難しいですし、飲料の割引等も札幌市内に比べると難しくなります。道内各地へ配達ルートを持つ取引先と全道一括で商品を仕入れる事を条件に事業連合で商談を行う事で現在の商品・サービスの提供レベルを築いているのです。逆に言えば北大生協単

独で商談を行うと現在より条件の良い仕入れが出来る可能性は高いにあります。しかし、1974年から連帯事業の中核としてその中心的な役割を果たしてきた北大生協は大きな心で全道同一価格、同一サービスの実現の為に、その機能を事業連合に委託し続けています。事業連合は引き続き北大生協の組合員の皆さまに満足いただけるよう機能を充実・高度化していきたいと考えています。

今回の機会をいただけるようでしたら、現在全国の大学生協で協議されている連帯組織の再編についてご紹介したいと思います。どうぞ、よろしくお願ひします。



【商品の流れと事業連合の機能】

### 院生による院生の書評誌

# 『ほんでないかい2015』絶賛配布中！ お薦めポイント紹介



院生書評誌『ほんでないかい2015』は、もうご覧になりましたか。  
書評だけでなく様々なコンテンツを有する本誌のおすすめポイントを紹介します。

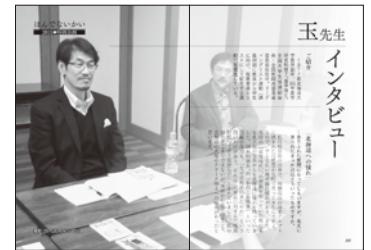
#### おすすめポイント その一 書籍部紹介

まずは「院生委員による書籍部紹介」のページです。長い間北大にいても、生協書籍部についてよく分からない点があったりなかったり…。そんな点が分かる・解決できる内容を集めてみました。利用経験がない人だけでなく利用している人も、本誌を片手に、今一度書籍部について知ってみましょう。そしたら、生協書籍部を訪れてみて、実践あるのみです。1人ではなく、生協書籍部クラーク店の書籍ソムリエと相談して本を買うというBook Lifeを、この冬に体験してみませんか。



#### おすすめポイント その二 読書の大切さ

また、「特別企画インタビュー」もおすすめポイントです。「若者の読書離れ」が騒がれる今日、そもそもなぜ読書が大切・必要なのか疑問を持つかもしれません。その疑問に「リーディングリスト運動」をしている全国大学生協連合会教職員委員会委員長・玉先生（北大農学部OB）がインタビューに応じてくれました。大学の先生という立場からみる「読書観」・読書の大切さを知ることで、読書のイメージが変わるかもしれません。読書への新たなイメージを持って、騙されたと思って、本・読書というものに触れてみてください!!



## 口座引落としご利用の皆様へ

平素は格別のお引立てに預り厚く御礼申し上げます。

さて、当生協でのご利用代金は別紙明細書内訳の通りでございます。

つきましては、ご指定の預金口座から振替させていただきますので、お手数でも今月の振替日20日の前日までに預金口座にご入金下さるようお願い申し上げます。

なお、毎月25日締で請求させていただいておりますが、12月はお正月休みの関係上誠に勝手ながら12月18日で締めさせていただきます。

それにとまなまして、12月19日以降のご利用代金につきましては1月分の請求（2月22日引落とし）とさせていただきますので何卒ご了承賜りますようお願い申し上げます。

今後とも北大生協をご利用くださいますようお願い申し上げます。

2016年1月

北海道大学生協同組合 経理課  
電話 011-726-9149 学内内線 2978

#### 2016年のスケジュール

購入日	口座引き落日
2015年12/19 ~ 2016年1/25	2016年 2/22
2016年 1/26 ~ 2/25	3/22
2/26 ~ 3/25	4/20
3/26 ~ 4/20	5/20
4/21 ~ 5/25	6/20
5/26 ~ 6/24	7/20
6/25 ~ 7/25	8/22
7/26 ~ 8/25	9/20
8/26 ~ 9/23	10/20
9/24 ~ 10/25	11/21
10/26 ~ 11/25	12/20
11/26 ~ 12/20	2017年 1/20

#### 手当て引きの引き落とし

購入日	口座引き落日
2015年 11/16 ~ 2016年 6/15	2016年 7/20
2016年 6/16 ~ 2016年11/15	2016年 12/20

# 心とからだ健康を考える

大学院教育学研究院 准教授

## 渡邊 誠



研究発表が、壁にハエを叩きつけるようにして粉砕されたなどということが起こったから、どうするか?このことをめぐって、引き続き考えてみたいと思います。前回は、研究の流儀なるものを理解することの意義を述べましたが、できることは他にもまだあるはず

です。まずは、当たり前ですが、酷評された理由を考えることですね。研究としての質はどうだったか、その方法や先行研究の扱い、記述の仕方あるいは倫理的配慮といった問題の再検討が、第一に来るでしょうか。しかし、この点は比較的単純ではないかと思えます。研究分野によってはこういった問題には明確な基準があるということもあるでしょうし、若い初学者の方の場合は、指導者との間で十分に検討済みであることも多いでしょう。比較的

理解することの容易な側面と思えます。しかし、研究の評価というものは、狭義の研究としての質に関連してのみ行われるものではないと思えます。研究といえども人間の営みであるからには、対人的、文化的、社会的などの、重複するさまざまな文脈の中で行われるわけで、そういったものからの影響は避けられないと考えた方が、現実には適っているのではないのでしょうか。

では、もう少し具体的に、研究に対する酷評ないしは否定的な評価が行われる理由のうち、複雑なものについて考えてみたいと思えます。

一つには、通過儀礼、つまり、一人前になるための試練としての酷評というものがあ



がいに随する危険もあって、批判の与え手側も当然問われて然るべきであると私は考えます。また、新しい手法や概念等を持ち込もうとするに對する抵抗のような形で、批判が行われる場合もあるでしょう。私は自分が学会で座長を務めた際に、そのように思える場に遭遇し、後でその若い発表者のフォローに努めた経験があります。

さらには、もっと複雑な場合もあります。たとえば、それについて発言することに有形無形の困難が伴う領域というものがあ

り。また、新しい手法や概念等を持ち込もうとするに對する抵抗のような形で、批判が行われる場合もあるでしょう。私は自分が学会で座長を務めた際に、そのように思える場に遭遇し、後でその若い発表者のフォローに努めた経験があります。さらには、もっと複雑な場合もあります。たとえば、それについて発言することに有形無形の困難が伴う領域というものがあ

### 学生委員会企画 『健康チェック』

～自分のからだの状態を自分でチェック～

昨年の12月15日、16日、18日に学生委員会で「健康チェック」という企画を実施しました。この企画は主に北大生の方々に、器具での測定を通して自分の体の状態を知ってもらい、健康について意識してもらうための企画です。この企画も今回で5年目になります。

15日、16日は北部食堂の2階にて実施しました。ここでは血圧、肌水分、ストレス、視力、握力、アルコールへの耐性など9つの測定器具を用いて企画を行いました。他にも泥酔ゴーグルを用いた泥酔状態体験を行いました。大学生にとって身近な飲酒問題であるだけに、参加者の関心も高かったです。

18日は工学部のエントランスで実施しました。スペースの都合で北部2階での企画時よりも規模を縮小して行いましたが、こちらも多くの方が参加してくださりました。

この3日間で計120人の方に企画に参加してもらい、自分の体の健康と向き合ってもらいました。企画に参加して終わりではなく、これからの生活でも自分の健康状態を意識してもらえたら幸いです。

なお、この企画の実施に際しては、器具の貸し出しや使用方法などで保険センターにご協力いただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。



第6回

# 植物園に行こう

## 変わらない植物園がもたらすもの

北海道大学北方生物園フィールド科学センター植物園 加藤 克

植物園内では、職員が動く範囲と文化財建築の周りが除雪され、その他の部分は深い雪が積もっています。「植物園に行こう」第6回はこの雪の下にある遺跡について紹介します。

植物園の入り口から中央にある博物館までの道沿いに、2箇所のおぼみを見る事ができます(写真1)。来園者の方に「これは何だと思いませんか?」と聞いかけると、「大きな樹木が倒れた痕」といった答えが返ってきますが、これらは、いまから1000年ほど前の擦文文化期の竪穴住居の跡なのです。博物館の収蔵庫には、植物園内で採集されたという記録をもつ土器の破片や石器(写真2)などが収蔵されていて、住居跡だけでなく人々が生活に利用していた道具も見つかっています。植物園のあるあたりは扇状地の縁に位置し、水が湧き出る豊かな地域でした。1000年前にこのあたりで生活していた人々も、水を利用し、そこに集まる動物たちを利用していたのでしょう。植物園内で実際に確認することが出来る住居跡は3箇所が知られていますが、温室や新しい収蔵庫を建設した際に、地面の下に残されていた住居跡(写真3)が確認されているので、植

物園の地面の下にはまだ数多くの生活の跡が残されているに違いありません。植物園は、植物や博物館の展示室にある動物資料や民族資料だけでなく、過去の人々の生活の様子を学ぶことができる場でもあるのです。

さて、このような遺跡は植物園だけにあるのでしょうか?明治時代には、植物園から現在の北大キャンパスあたりを流れていた川の周辺に数百箇所の住居跡があったことが記録に残されています。しかし、それらの大部分は開拓や開発によって破壊され、現在は植物園などの開発を免れた場所だけでしか観察できないことになってしまいました。社会的要請から最新の設備や建物が求められることはやむ

を得ない部分もありますが、札幌の原地形や遺跡が残され、今も学びに利用することが出来るのは、植物園が「変わらなかつた」からにほかなりません。一度破壊されてしまったものは、復元されたとしてももともとの価値を取り戻すことはできません。「変わらないでいること」は何もしていかないのではなく、重要なものを「残す」という役割を果たしているということなのです。

植物園だけでなく、北大の札幌キャンパスはすべて遺跡として指定されています。埋蔵文化財としての遺跡・遺物の保護のため、また遺跡の上に成立しているという北大キャンパスの魅力を保全するため、2014年

に実施された重要文化財の耐震補強工事では、地下に眠っている遺跡を壊さないような工事手法が検討・実施されました。今後北海道大学では遺跡の保存に配慮した工事計画が進められてゆくものと期待していますが、キャンパス内の建物の多くは遺跡を破壊して建てられてきたことも事実です。雪が融けた後の植物園を散策しながら、キャンパスの過去、現在、そして未来に思いをはせてもらえればと考えています。

6回にわたってお伝えした「植物園に行こう」は今回が最終回です。植物園にはまだまだ魅力的な素材がたくさんあります。ぜひ足を運んでいただき、見つけ出してください。



写真1 博物館前のくぼみ(住居跡)



写真2 植物園内で発見された遺物



写真3 収蔵庫工事前の発掘調査の様子

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

# 北大生協組織委員会報告

## 学生委員会

### ■広報活動 機関誌「Letter」

学生委員会では機関誌「Letter」の発行を行っています。毎年5月、7月、11月、1月の年4回発行しており、全て学生の手で作成しています。学生委員会の活動、時期に応じた役立つ情報を組合員に届けています。生協店舗での設置配布のほか、北部・中央・クラーク・工学部の各食堂前で学生委員が配布しているときもありますので、ぜひ手に取っていただければと思います。2016年1月発行号は、節目の500号でした。これまでの積み重ねを大切に、更なる情報を組合員みなさんに届けていきます。



### ■受験生歓迎活動

北大二次試験に合わせ、受験生の不安解消・軽減を目的とした受験生歓迎活動を行います。前期試験・後期試験の両方で実施予定です。毎年好評の「北大生と話す」や受験生歓迎冊子「いな蔵」、北大構内の「道案内」などの企画を予定しています。他大学でもあまり見ることのない活動でもあり、多くの北大受験生が試験で力を発揮できるように、先輩北大生らが受験生を歓迎、応援します。

学生委員会連絡先：  
gakusei@coop.hokudai.ac.jp

## 院生委員会

はじめまして。院生委員会の北原です。今年も院生委員会は院生と生協の意見交流、院生生活の充実のために活動を展開していきます。今回は去る12月28日に発行した書籍紹介冊子「ほんでないかい2015」について紹介していきます。

まず、書籍紹介と聞いて敷居が高いと思うなかれ！「ほんでないかい2015」は自分の周りにいる院生がおすすめる学術書や小説、エッセイといった多岐にわたる本の書評21本を掲載しています。大学院生ならではの視点で読み解かれた書評は独特な感性・表現にあふれていて、これだけでも一見の価値あり！他にも生協書籍部の紹介や特別企画ページともりだくさんのコンテンツとなっております。詳細は本誌5ページに記載しておりますので、こちらも是非ご覧ください。

以上。誰が、いつ、どこで、どこから読んでも楽しめる、会心の書評誌となりました。興味を持って下さった方は、是非手に取ってご覧ください！なお、各学院の掲示板、書籍部クラーク店・北部店などで配布中です。



## 留学生委員会

### ■留学生リーフレットの編集作業

3月末の発行に向け、委員が北大に来て直ぐの頃を思い出しながら従来の内容を大幅に見直し、検討を重ねています。目指しているのは「北大生協を多くの留学生に知ってもらい利用してもらえ、ことに繋げる！」です。

### ■留学生委員オプザバー募集！

昨年は定員割れでの活動となり大変でしたが、年末やと11名になりました。しかし、今春卒業等で退任の予定があり今後スムーズに活動するためにも、委員になる前提での留学生オプザバーを募集します。

◇生協組合員で日本語がある程度理解できることが基本で、現メンバ以外からの出身国の方を探しています。(ポーランド、イラン、ガーナ、韓国、中国、台湾、ブラジル、マレーシア、バングラーデシュ、インドネシア、アメリカ)ご紹介いただける場合は理事会室にご連絡ください。

(内線：32285 担当 室田)

### ■委員会始め、正月料理を楽しむ

日本のお正月を代表する料理の「雑煮・黒豆・なます」の三品をハラルで用意して、初めのお餅や甘い味付けの豆料理、日本のピクルスを食ベる健康と活躍を祈りました。



## 教職員委員会

### ■教職員総代会議・学内7ヶ所

8月を除く毎月1回、昼休みを利用して開催しています。生協の営業報告の後、教職員の皆様に利用者の立場から組合員の声等を行っています。

### ■教職員委員会・毎月1回、18時

19時半に開催しています。総代会議で上がった組合員の声についての検討、きぼうの虹の編集・発行について討議しています。

### ■きぼうの虹・この冊子です。教

職員委員会が編集し偶数月に発行しています。連載記事を常時募集しています。

### ■生協加入キャンペーン・教職員

を対象として10・11月に実施しました。今回はご紹介特典が付いたこともあったのか、多数の方々に紹介・加入して頂きました。加入は随時受付をしております。

### ■フォトコンテスト作品展投票結果

一位「一日の終わりに」……………8票  
二位「大野池の夜」……………6票  
三位「北大から世界へ」……………4票  
リス「空のパレット」……………各4票  
40作品に票が分かれたので、力作ぞろいを選ぶのが難しかったのでしよう。

■今では日本有数のコメどころである石狩平野が、泥炭地で決して耕作に適した土地ではなかったことを知りました。茶碗を片手に、ふと明治以来の先人たちの開拓の苦勞を思うことがあります。

### ■各種連絡先・北大生協理事會室

(学内内線：32285)  
seikyoku@coop.hokudai.ac.jp